学長寄稿
就任のご挨拶

福井大学長　上田　孝典

福応会の皆様にはお元気で御活躍のことと存じます。私儀、４月より第４代学長を拝命致しました。

今回、自己紹介のご依頼も頂きました。私は、医学部の出身で内科学、なかでも血液内科学（特に白血病・リンパ腫等の血液がん）、感染症、痛風を専門とし、３月まで外来診療も致しましたが、４月から離れております。先生方も教壇について同じご経験がおありかもしれませんが、私にとって外来の椅子というのは最も落ち着くところでしたので少々残念なところです。

さて、大学の話に戻ります。財務は最大の課題です。国からの運営費交付金は法人化後の１５年間で約１０億円削減されました。加えて、国立大学全体に配分される予算のうち、来年から１千億円は前年度の研究教育等の実績に応じて配分される予定であり、このことで息の長い優れた研究をしにくい状況が生まれました。また毎年人件費予算も不安定となり、長期にわたり優秀な人材を確保することも出来にくくなるため、国大協全体が足並みをそろえ反対をしているところです。このような中、本学においても順調とはお世辞にも言えませんが、各部局の絶えざる努力により何とかアクティビティを保っています。

他学部は紙面の都合で省略しますが、教育･人文社会系部門も発展しており、特に誕生後３年を経過した国際地域学部には、国際地域マネジメント研究科という法科・教職以外では北陸初の専門職大学院が定員７名で誕生し、リカレント教育を中心とし、福井県内の企業や自治体の優れた人材を幹部候補者として一層育成する役目を担うこととなりました。

教育学部においても大学院の改組を行い、従来あった修士課程は教職大学院に来年４月より一本化され、より強力な体制になります。教職大学院は御承知の如く、全国区の知名度で文科省・自民党の文教部会等、どこに行っても高く評価される状況です。さらにグローバルな進出としてＪＩＣＡと組み、エジプトの初等中等教育の教職員を数年がかりで６８０名受け入れるプロジェクトが開始されており、急いでモスクを設定しました。イスラム教の衣服の女性もかなり見かけるようになりました。今後、本大学院のグローバル化は国のモデルケースとしてもさらに展開してゆきたいと考えています。

懸案の財務については１５年の間に１０億円目減りした運営費交付金の減少を挽回すべく学内に基金事務局を設け、そこでは特に同窓で経営者になっておられる方による同窓経営者の会をはじめ、非常に活発に基金活動をして頂いております。福応会の皆様におかれましても、機会あらば、是非ご協力賜りたく存じます。

最後はご依頼となり恐縮ですが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。